

令和2年度

学校自己、及び、学校関係者評価表

武蔵村山市立第八小学校

経営理念

人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校

氏名前（ ）

【学校運営協議会・会長】
学校運営協議会（学校評価分）第1回 12月 8日（火）
第2回 3月12日（金）
第3回 月 日（ ）

様式4

				自己評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価		
経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	9月 12月 目標値		最終評価			意見	評価点 (4点満点)	
			達成値	達成度						
豊かな学力の向上	《指導力の向上》 ◆(中期)学習意欲、思考力・判断力・表現力の向上 ◆(中期)知識・技能の確実な定着	◇授業改善推進プランに基づき、「学習意欲、思考力・判断力・表現力」の向上と「知識・技能」の定着を図る。 ◇東京ベーシック・ドリルの内容の、7割以上の定着を図る。	○(保護者アンケート)肯定的評価の割合 ○第5学年都調査と類似問題の結果の比較 ○ベーシック・ドリル診断テストCの結果	80 63	66	81	A	低学年では、宿題や自主学習、習熟タイムを通して基礎基本の定着を図ることができた。 高学年では、知識の定着が図れていない児童が多い。どの学級も、「学習意欲、思考力・判断力・表現力」の向上と「知識・技能」の定着に向けて授業を工夫している。	・個別支援が必要な児童に対して、個別の課題を用意する。 ・振り返りなどを活用して、学習意欲や思考力を伸ばす材料にする。 ・習熟タイムの活用。レベルに応じた問題を出す必要がある。 ・指導と評価の一体化を図る全員の知識、技能の向上のためにグループ学習、ペア学習の実施する。 ・家庭学習による家庭との連携、習熟タイムを活用した既習単元を復習する機会の増加。	・なるほど塾等の支援者にに対し、これらの講座の効果が見えるようにしてほしい。 ・算数プリントを道具としているが、間違いの原因を追究し、その原因に対処指導するようにしてほしい。
	《地域との連携》 ◆(中期)保護者・教育支援ボランティア(地域)を活用した共同活動の推進	◇「繰り上がり」「繰り下がり」の徹底を図る。(基礎学力の定着) ◇「かけ算九九」(基礎学力の定着)…11月、3学期末 ◇「八小なるほど塾」(基礎学力の定着)…2学期に実施「詩の暗誦」(基礎学力の定着)	○「伸びゆく子」の評価	80 70	74	90	A	八小なるほど塾では、基礎的な問題を繰り返し解く機会が与えられ、取り組むことができています。繰り上がりや繰り下がり、九九は定着してきたと感じられる。一方で、このコロナ禍の中で昨年度より機会が少なくなったと感じている教員が多い。	・習熟タイムなど、ボランティアを募集する。 ・引き続き連携をとって活動していく。 ・4年生でも低学年のようにボランティアを活用して学習する機会を設ける。 ・保護者会を通したコミュニケーションをしていく。	・夏休みの「八小塾」では、基礎学力の定着に不安のあるお子さんが多いように感じたが、2学期の「なるほど塾」ではかなりの改善が見られてとてもうれしく思った。
豊かな心の育成	◆(中期)いじめ撲滅への取組	◇週1回の生活指導夕会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	○「ふれあい月間」の結果 ○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 83	82	103	A	ふれあい月間などの取り組みを通して、早期発見早期解決ができている。また、学校全体で情報共有ができている。教員の意識も高く、肯定的評価が多い。	・休み時間の児童観察や教員との情報交換を積極的に行う。 ・「何がきっかけだったのか」を、きちんと考えさせながら解決させていきたい。 ・いじめ防止対策委員会に各ブロック1名入れることで、いじめ防止対策委員会でのん話合いが行われたのかの情報を共通理解しやすいとする。	・登下校とは限らず、いろいろな機会で見顔を元気に挨拶する習慣が身に付きお互いに気持ち明るくなる。
	◆(中期)特別支援を要する児童への対応	◇特別支援コーディネーターを中心に学校(担任、学年主任、生活指導主任、養護教諭、SC、特支専門員、等)と保護者、外部機関(教育相談、医療、等)で適切な支援の共通理解を図る。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、該当児童への支援の確認と協議を行う。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80 75	73	93	A	要配慮の児童について特別支援コーディネーターや特別支援校内委員会にも関わり、保護者と連携しながら児童の支援について検討した。一方、特別支援学級との共通理解を図る時間が少ないと感じている教員もいる。	・専門員等と相談して取り組んでいく。 ・指導の方向性を共通理解し、保護者にも対応できるようにしたい。 ・早い段階で見取り、学年主任やSC、特支専門員などの助言を頂きながら適切な支援方法を考える。 ・学期に1回は担任と特別支援担任とで、子供の現状、目標について話すようにする。	・支援活動などの機会に児童とのコミュニケーションがとれ「よろしく願っています。」「ありがとうございました。」の挨拶がうれしい。 ・「感謝」する心を持ち、それを態度で示せるように。 ・これからの声掛け、応答も重要である。
	◆(中期)思いやりの心もち、明るい挨拶や会釈のできる子供の育成	◇「挨拶の励行」を推進する。(随時) ◇【徳育科】指導法、評価方法、指導資料の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。	○(自己評価)児童の行動についての肯定的評価の割合 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 75	72	92	A	挨拶については、徳育科の授業や週目標の活用によって推進している。児童アンケートは肯定的な評価の割合が多く、児童の意識は高い。学校全体では、学年差や学級差が大きいことや、知らない先生相手には挨拶ができない児童が多いことが課題である。	・徳育科の礼法の時間を使い、指導するようにする。 ・徳育科では、教材に出てくる人物の心の動きについて考える時間も大事にし、よりよい実践を思い描かせるようにする。 ・挨拶をすることの良さ、価値を根気強く指導していく。 ・教員が手本となり「相手よりも先に挨拶する」を実践する。 ・ふれあい月間、五中校区の挨拶運動など、機会をえて、全校で徳育で挨拶、礼儀に関する項目を重点的に指導する。	・挨拶は「する子」「しない子」それぞれのように思われる。
	◆(短期)話を一度で聞き取る子供の育成	◇「教室の中で話しているのは一人」の「教室」を、全校朝会、児童集会、学年集会、等の場に拡大し、推進する。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80 63	61	78	B	全体としては、話を聞く姿勢はできている児童は多いが、不規則発言や独り言が多い児童も少なからずいる。また、内容を最後までしっかり理解できていないことや、話を聞いた後にすぐ行動できないことが課題である。	・大事な話を聞き逃さないトレーニングや、声の質や大きさを变える工夫をして授業をすすめる。 ・児童が集中しやすい授業環境を整える(ユニバーサルデザインなど)。また、生活習慣を整えられるよう、家庭との連携を強める。	・「なるほど塾」の折りの様子では、私語の多い子がいる。
健やかな体の育成	◆(短期)「早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き」の徹底	◇2学期、3学期に実施する生活リズムカードにより意識付けを図る。 ◇各学年の目標値を明確に示し、8割以上の定着を図る。	○生活リズムの集計結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 61	67	80	A	今年度は健康チェックカードを活用しているので、例年よりも生活リズムの見取りがしやすくなっている。記述されている内容を見てもおおむね良好といえる。一方で、「就寝が遅い→朝起きられない→朝食を食べない→授業に集中できない」という悪循環の児童もいる。	・何時に寝ると体の調子がどうなるか、など具体的に理解できるように指導していく。 ・寝る子が遅い子が目立つので、勉強と睡眠の関連性を伝えていく。 ・保護者会で「早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き」の大切さを示す科学的データを提示するようにする。	・今年度は行事の中止、制限があり、体力向上に関わる支援の機会がなかったが、通常年では体力テスト、測定などの支援を続けている。 ・これらの行動の中で、児童の体力に関する実態を感じ、学校と地域とが協同で増進を図る手立てを考え実行したい。
	◆(中期)運動好きの児童の育成	◇ハッピーチーズデイを活用した外遊びの奨励、市内サッカー、ドッジボール大会参加などへ積極的な募集、なわとび集会、持久走週間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ◇OJTタ会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	○新体力テストの結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合	80 67	76	89	A	身体を動かす子供が多く、体育の学習に意欲的に取り組む児童が多い。また、コロナ禍でも長縄や短縄の取り組みを行うことができて、児童が意欲的に参加している。一方で、学校全体の取り組みがない期間の中休みなど、教室に残っている児童を見かけることもある。	・体育の授業の中で技能面での目標をもたせ、体育学習の楽しさを感じられる授業を展開して、体を動かす気持ち良さを全員が感じられるようにする。 ・担任も一緒に遊んだり、体育の授業を工夫したりする。 ・もっと専門的な知識を身に付けたいのでOJTで学びたい。 ・現在の中休みに外にでるという取り組みを続けるとともに、遊びのレパートリーを増やす。	・放課後の遊びの中での体力増進策の充実を図る策を考える必要性を感じる。 ・部活動の支援などの強化を検討したい。
防災意識の向上	◆(中期)災害や犯罪に対応する取組	◇年間計画に基づいて、実際に近い想定で確実に実施する。(火災、地震、不審者侵入、引き取り、集団下校、暴風雨、セーフティ教室、自転車教室、交通安全教室)	○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 81	80	101	A	児童アンケートでは9割以上、保護者アンケートでは8割以上の肯定的評価があった。訓練の内容も実際の災害を想定した訓練になってきており、教員側の意識も高いことを伝えていく	・避難訓練には真面目に取り組んでいるが、一人一人の判断力を向上させるためにも、防災ノートなどをより活用して、児童に考えさせていく。 ・SNS東京ルールなどで指導し、子供に犯罪が身近にあることを伝えていく ・自助、公助、共助の精神を育てる。	・学校経営協議会において「児童の安心・安全を考える」をテーマに議論し、総括的に広範囲な場面を想定した防止策の現状、改善点を整理し「八小児童の安全ノート」の作成に向けての作業に取りかかっているところである。
教師としての質の向上	◆(中期)「思考力・判断力・表現力」の育成を目指し、問題解決型の学習過程を身に付けること	◇全教員が「八小授業スタンダード」に基づいた授業を1週間に5回以上行う。 ◇全教員が「一人一研究」に基づいた研究授業を年2回以上行う。	○(自己評価)授業後の肯定的評価の割合	80 66	62	80	A	研究授業での講師の指導をもとに、授業改善を図っていたり、図ろうと努力している教員は多い。一方で、児童の実態から、知識・技能が十分ではなく思考・判断・表現に課題を感じている教員も多い。	・校内研究や一人一研究の授業や協議を通して勉強する。 ・時間配分を考え、児童の思考が途切れないように、自力解決の時間を確保する。 ・OJTや研修に参加したり書籍を読んだり他の先生方の授業を参観したりすることで研鑽に努める。 ・タブレットを活用し具体的な場面を見せながら問題解決する場面を設定する。	・学校経営方針にも教職員の質の向上に向けての施策をあげている。これを効果的に進めてほしい。 ・この基になるのは「多忙からの脱却」である。働き方改善を基に、児童に向き合う時間が増えてほしい。このために協議会としても代行できる事には積極的に支援しているのが現状である。
	◆(中期)児童の健全育成、安全対策を推進するために、地域・家庭との連携を深めること	◇教員それぞれが、年間6回程度PTA活動や地域行事へ参加する。 ◇学級からの配布物、電話、面談、家庭訪問などの手段を用いて、適宜保護者と連絡を取る。	○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80 71	69	88	A	学級便りや電話連絡など、積極的に家庭と連携を図れている学級が多い。また、コミュニティ・スクールとしての取り組みによって多岐にわたって地域とも連携を図れている。今年度は、コロナの影響でPTA行事や地域行事が軒並み中止・縮小されていた。	・課題を伝える際に、こちらの意図がきちんと伝わるように言葉を選んで話すようにする。 ・トラブルや問題がなくても保護者と連絡を取り、子供の情報を共有する。 ・連絡メールやホームページにある学年ページの更新などを通し学校の様子を発信する	・支援して教師が本来の教育活動に向けての増えればやりがいがある。支援の効果を知りたい。そのためには業務分析からはじめる業務改善の行動が必要である。 ・学校経営協議会の役割として分野(例えば経験を積んだ教師)の教員の配属要請を行政に行っている。

【達成度】 = [達成値] ／ [目標値]
【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し

達成値 4：よくできている 3：おおむねできている 2：あまりできていない 1：できていない

平均値 4

…肯定的 …否定的